

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	11 建築積算と施工技術	項 目	11.3 標準的な施工プロセス	細 目	正答肢	2															
<p>問題 I-1</p> <p>準備工事段階に行う主な調査項目に関する次の記述うち、最も不適切なものはどれか。</p>	<p>【出典】</p> <p>建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 5%;">1</td> <td style="width: 15%;">P 270</td> <td style="width: 40%;">11.3.2</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">3行</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>P 270</td> <td>11.3.2</td> <td style="text-align: right;"></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>P 269</td> <td>11.3.2</td> <td style="text-align: right;">42行</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>P 270</td> <td>11.3.2</td> <td style="text-align: right;">5行</td> </tr> </table>					1	P 270	11.3.2	3行	2	P 270	11.3.2		3	P 269	11.3.2	42行	4	P 270	11.3.2	5行
1	P 270	11.3.2	3行																		
2	P 270	11.3.2																			
3	P 269	11.3.2	42行																		
4	P 270	11.3.2	5行																		
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 周辺道路・埋設物の調査 2 建築基準法適合状況の調査 3 敷地の形状・高低調査 4 近隣周囲の調査（家屋・建物所有者・環境・電波障害など） 					<p>【解説】</p> <p>「建築基準法適合状況調査」は準備工事段階に行うものではない。 （適合調査とは検査済証のない建築物が適法であるか否かを判定をするための調査）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 3. 記載通り。 4. 記載通り。 																

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	11 建築積算と施工技術	項 目	11.1 近代建築における構造の変遷	細 目	正答肢	4																								
<p>問題 I-2 建築基準法で規定されている構造種別の次の記述うち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 5%;">1</td> <td style="width: 15%;">P 262</td> <td style="width: 15%;">11.1</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%; text-align: right;">24行</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>P 262</td> <td>11.1</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">27行</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>P 262</td> <td>11.1</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">25行</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>P 262</td> <td>11.1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		1	P 262	11.1			24行	2	P 262	11.1			27行	3	P 262	11.1			25行	4	P 262	11.1			
1	P 262	11.1			24行																									
2	P 262	11.1			27行																									
3	P 262	11.1			25行																									
4	P 262	11.1																												
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 鉄骨鉄筋コンクリート造 2 補強コンクリートブロック造 3 木造 4 プレハブ造 					<p>【 解 説 】</p> <p>「プレハブ造」は建築基準法で規定されている構造種別ではない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 2. 記載通り。 3. 記載通り。 																									

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	11 建築積算と施工技術	項 目	11.4 特殊工法・新技術	細 目	正答肢	1																
<p>問題 I-3 逆打工法の概要と優位性に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 5%;">1</td> <td style="width: 15%;">P 294</td> <td style="width: 40%;">11.4.4 (1)</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">39行</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>P 294</td> <td>11.4.4</td> <td style="text-align: right;">29行</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>P 294</td> <td>11.4.4 (1)</td> <td style="text-align: right;">36行</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>P 294</td> <td>11.4.4 (1)</td> <td style="text-align: right;">41行</td> </tr> </table>		1	P 294	11.4.4 (1)	39行	2	P 294	11.4.4	29行	3	P 294	11.4.4 (1)	36行	4	P 294	11.4.4 (1)	41行
1	P 294	11.4.4 (1)	39行																			
2	P 294	11.4.4	29行																			
3	P 294	11.4.4 (1)	36行																			
4	P 294	11.4.4 (1)	41行																			
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 構真柱は鉄骨柱を地下1階から施工に合わせ、順次最下階へと構築していく柱である。 2 安全性の確保、周辺環境への配慮、作業スペースの確保や工事費の削減等の必要性から逆打工法の優位性が認められている。 3 剛性の高い地下躯体を山留め支保工として利用しながら、順次下部へ掘削と地下躯体構築を進める工法である。 4 地上躯体工事も地下工事と並行して進めることができるので、大幅な工期短縮が可能になる。 					<p>【 解 説 】</p> <p>地下躯体を上部から先行して構築するため、事前に杭に構真柱という鉄骨柱を挿入しておく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 記載通り。 3. 記載通り。 4. 記載通り。 																	

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	11 建築積算と施工技術	項 目	11.3 標準的な施工プロセス	細 目	正答肢	3																
<p>問題 I-4 建築物における設備工事に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">1</td> <td style="width: 15%;">P 282</td> <td style="width: 40%;">11.3.8. (10)</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">38行</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>P 283</td> <td>11.3.8. (10)</td> <td style="text-align: right;">5行</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>P 283</td> <td>11.3.8. (10)</td> <td style="text-align: right;">25行</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>P 283</td> <td>11.3.8. (10)</td> <td style="text-align: right;">21行</td> </tr> </table>		1	P 282	11.3.8. (10)	38行	2	P 283	11.3.8. (10)	5行	3	P 283	11.3.8. (10)	25行	4	P 283	11.3.8. (10)	21行
1	P 282	11.3.8. (10)	38行																			
2	P 283	11.3.8. (10)	5行																			
3	P 283	11.3.8. (10)	25行																			
4	P 283	11.3.8. (10)	21行																			
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 設備は防災の確保や最適環境を維持するため、重要な役割を果たす工事である。 2 施工計画に先だって現地調査をおこない、設計図書の記載内容と照合し不備がないかを確認する必要がある。 3 重量大型機器（ボイラー等）は機械室に設置することが多い。通常の通路や扉の大きさでは搬入できない場合は躯体工事の着手前に搬入・設置する。 4 建築・設備の各担当者は工事区分について打ち合わせを行い、それぞれの責任範囲を確認する。 					<p>【 解 説 】</p> <p>通常の通路や扉の大きさでは搬入できない場合、躯体の床や壁に開口部（ダメ穴）を設けて搬入する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 2. 記載通り。 4. 記載通り。 																	

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	11 建築積算と施工技術	項 目	11.3 標準的な施工プロセス	細 目	正答肢	3																							
<p>問題 I-5</p> <p>工程表に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>	<p>【出典】</p> <p>建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 5%;">1</td> <td style="width: 15%;">P 267</td> <td style="width: 15%;">11.3.1</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%; text-align: right;">29行</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>P 267</td> <td>11.3.1</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">16行</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>P 267</td> <td>11.3.1</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">18行</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>P 267</td> <td>11.3.1</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">31行</td> </tr> </table>					1	P 267	11.3.1			29行	2	P 267	11.3.1			16行	3	P 267	11.3.1			18行	4	P 267	11.3.1			31行
1	P 267	11.3.1			29行																								
2	P 267	11.3.1			16行																								
3	P 267	11.3.1			18行																								
4	P 267	11.3.1			31行																								
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ネットワーク工程表は、重点管理ポイントが明確になる。 2 バーチャート工程表は、作業の前後関係が明確に表現できない。 3 バーチャート工程表は、工程の部分変更が全体に与える影響を発見しやすい。 4 ネットワーク工程表は、きめ細かい施工計画が立案できる。 					<p>【解説】</p> <p>バーチャート工程表は、工程の部分変更が全体に与える影響が発見しにくい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 2. 記載通り。 4. 記載通り。 																								

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	11 建築積算と施工技術	項 目	11.3 標準的な施工プロセス	細 目	正答肢	1
<p>問題 I-6</p> <p>建物を引渡しに関連して、所有権の移転登録上の必要な書類があるが、次の書類のうち、最も不適切なものはどれか。但し、建物の新築の場合で取壊し建物が無い場合とする。</p>					<p>【出典】</p> <p>建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P287 11.3.10. (2)</p> <p>2 P287 11.3.10. (2) 3行</p> <p>3 P287 11.3.10. (2) 4行</p> <p>4 P287 11.3.10. (2) 2行</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 工事費見積書</p> <p>2 建築確認通知書</p> <p>3 建築検査済証</p> <p>4 発注者本人の住民票抄本</p>					<p>【解説】</p> <p>工事請負契約書</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	1 建築積算とは	項 目	1.2 建築積算の目的	細 目	正答肢	1
問題	I-7 建築積算の目的に関する次の記述のうち、 最も不適切なもの はどれか。			【出典】 建築積算士ガイドブック		
				1 P3 1.2	9行	
				2 P3 1.2	30行	
				3 P3 1.2	32行	
				4 P3 1.2	37行	
【解答肢】	<ol style="list-style-type: none"> 1 建築積算の目的は、プロジェクトの設計初期段階から設計終了までのコストマネジメントをおこなうことのみの特化されている。 2 質の高い価値のある建物は、設計(デザイン)と施工(技術)だけでなく、適切なコストマネジメントによる裏づけがあって実現する。 3 建築プロジェクトの経済行為は、求める機能と経済性のバランス(価値)で成り立つものであり、この管理(マネジメント)が目的である。 4 建築コストの算定と評価は、建築積算技術者の判断に負うところが多く、的確に把握するために高度な能力と努力を要する。 			【解説】	<p>建築積算の目的は、企画段階から建築物のライフサイクル全般にわたってプロジェクトのコストマネジメントをおこなうことである。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	2 建設産業について	項 目	2.3 建築生産プロセスとコストマネジメント	細 目	2.3.1 多様化する建築生産プロセス	正答肢	2												
<p>問題 I-8 建築生産に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>						<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 10%;">1 P15</td> <td style="width: 60%;">2.3.1</td> <td style="width: 30%; text-align: right;">35行</td> </tr> <tr> <td>2 P16</td> <td>2.3.1</td> <td style="text-align: right;">4行</td> </tr> <tr> <td>3 P16</td> <td>2.3.1</td> <td style="text-align: right;">13行</td> </tr> <tr> <td>4 P16</td> <td>2.3.1</td> <td style="text-align: right;">16行</td> </tr> </table>		1 P15	2.3.1	35行	2 P16	2.3.1	4行	3 P16	2.3.1	13行	4 P16	2.3.1	16行
1 P15	2.3.1	35行																	
2 P16	2.3.1	4行																	
3 P16	2.3.1	13行																	
4 P16	2.3.1	16行																	
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公共建築工事では、原則的には競争入札で施工者が選定されるが、民間では見積合せのほか特命方式も用いられる。 2 大規模、複雑な事案では、企画、調査、計画といった業務が、設計事務所と異なるコンサルタント等に発注されることは、ほぼなくなっている。 3 従前の施工では、現場で多くのコストが発生していたが、現在はプレファブリケーションが進み、現場搬入される資材の加工度が高くなっている。 4 建築のコストについて、竣工後の維持保全、運用、さらには除却に要する費用を含むライフサイクルコストへの関心が高まっている。 						<p>【解説】</p> <p>昨今では規模の大きいものや複雑な内容のものでは、設計に先立って、企画、調査、計画といった業務が、設計事務所とは異なるコンサルなどの事業者が発注される例も少なくない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 3. 記載通り。 4. 記載通り。 													

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	3 工事の発注・契約	項 目	3.1 発注方式	細 目	正答肢	3																			
<p>問題 I-9</p> <p>工事の発注方式に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>	<p>【 出 典 】</p> <p>建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 5%;">1</td> <td style="width: 15%;">P23</td> <td style="width: 10%;">3.1.1</td> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 10%; text-align: right;">12行</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>P23</td> <td>3.1.1</td> <td></td> <td style="text-align: right;">16行</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>P22</td> <td>3.1</td> <td></td> <td style="text-align: right;">40行</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>P23</td> <td>3.1</td> <td></td> <td style="text-align: right;">2行</td> </tr> </table>					1	P23	3.1.1		12行	2	P23	3.1.1		16行	3	P22	3.1		40行	4	P23	3.1		2行
1	P23	3.1.1		12行																					
2	P23	3.1.1		16行																					
3	P22	3.1		40行																					
4	P23	3.1		2行																					
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公共工事は、原則として建築工事、電気設備工事、機械設備工事および昇降機設備工事を、それぞれ分離して発注している。 2 民間工事は、建築工事、電気設備工事、機械設備工事および昇降機設備工事を一括して発注するが多い。 3 公共工事は、一般に設計施工一括方式が採用されているが、工期短縮やコスト低減を考慮して設計施工分離方式も採用されるようになった。 4 民間工事は、一般に設計施工分離方式が採用されているが、公共工事に比べて設計施工一括方式が多く採用されている。 					<p>【 解 説 】</p> <p>公共工事は、一般に設計施工分離方式となっているが、～中略～ さらに工期短縮やコスト低減を考慮して設計施工一括方式も採用されるようになった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 2. 記載通り。 4. 記載通り。 																				

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	4 設計図書	項 目	4.1 設計図書の構成	細 目	正答肢	4																								
<p>問題 I-10 設計図書に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 5%;">1 P32</td> <td style="width: 10%;">4.1</td> <td style="width: 5%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%; text-align: right;">18行</td> </tr> <tr> <td>2 P33</td> <td>4.1.1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">3行</td> </tr> <tr> <td>3 P35</td> <td>4.1.3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">3行</td> </tr> <tr> <td>4 P35</td> <td>4.1.4,5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">13.23行</td> </tr> </table>		1 P32	4.1				18行	2 P33	4.1.1				3行	3 P35	4.1.3				3行	4 P35	4.1.4,5				13.23行
1 P32	4.1				18行																									
2 P33	4.1.1				3行																									
3 P35	4.1.3				3行																									
4 P35	4.1.4,5				13.23行																									
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 設計図書とは、一般に建築物等の築造や施工の実施のために必要な図面その他の書類の総称をいう。 2 現場説明書とは、入札参加者に対して、図面や仕様書に表示し難い見積条件等を書面で示したものである。 3 質問回答書とは、設計図書などに対する入札参加者からの質疑に対して、書面で全参加者に回答したものである。 4 標準仕様書とは、当該工事のみに関連する材料の性能や品質、施工方法などを工事ごとに表現したものをいう。 					<p>【 解 説 】</p> <p>解答肢は、特記仕様書についての記述である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 2. 記載通り。 3. 記載通り。 																									

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	6 建築積算業務の実際	項 目	6.1 建築積算業務の流れ	細 目	正答肢	3								
<p>問題 I-11 建築積算業務の流れに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P50 6.1</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">21行</td> </tr> <tr> <td>2 P50 6.1</td> <td style="text-align: right;">21行</td> </tr> <tr> <td>3 P50 6.1</td> <td style="text-align: right;">22行</td> </tr> <tr> <td>4 P50 6.1</td> <td style="text-align: right;">24行</td> </tr> </table>		1 P50 6.1	21行	2 P50 6.1	21行	3 P50 6.1	22行	4 P50 6.1	24行
1 P50 6.1	21行													
2 P50 6.1	21行													
3 P50 6.1	22行													
4 P50 6.1	24行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 建築積算業務は設計図書を受け取った段階から始まる。 2 はじめに、積算要領や積算範囲などを確認した後に作業分担を行う。 3 内訳書を作成後、仮設、躯体、仕上、設備等の数量算出をおこなう。 4 直接工事費を算出した後に共通仮設費、現場管理費、一般管理費等の算出をおこない、工事価格を決定する。 					<p>【解説】</p> <p>仮設、躯体、仕上、設備等の数量算出をおこなう。その後、各数量の集計をおこなってから内訳書を算出する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 2. 記載通り。 4. 記載通り。 									

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	6 建築積算業務の実際	項 目	6.15.3 内訳書作成にあたっての基本事項	細 目	正答肢	4								
<p>問題 I-12 内訳書に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P179 6.15.2 (2)</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">3行</td> </tr> <tr> <td>2 P178 6.15.2</td> <td style="text-align: right;">27行</td> </tr> <tr> <td>3 P178 6.15.2</td> <td style="text-align: right;">25行</td> </tr> <tr> <td>4 P179 6.15.2 (2)</td> <td style="text-align: right;">5行</td> </tr> </table>		1 P179 6.15.2 (2)	3行	2 P178 6.15.2	27行	3 P178 6.15.2	25行	4 P179 6.15.2 (2)	5行
1 P179 6.15.2 (2)	3行													
2 P178 6.15.2	27行													
3 P178 6.15.2	25行													
4 P179 6.15.2 (2)	5行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 部分別方式は概算時の書式として使いやすい。 2 内訳書の書式には、工種別方式と部分別方式がある。 3 内訳書の書式は、発注者や設計事務所によって異なる。 4 工種別方式は改修工事等に利用しやすい。 					<p>【解説】</p> <p>改修工事等に利用されるのは部分別方式である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 2. 記載通り。 3. 記載通り。 									

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	6 建築積算業務の実際	項 目	6.16 値入業務	細 目	正答肢	2								
<p>問題 I-13 値入業務に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P182 6.16</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">8行</td> </tr> <tr> <td>2 P182 6.16</td> <td style="text-align: right;">9行</td> </tr> <tr> <td>3 P182 6.16.1</td> <td style="text-align: right;">22行</td> </tr> <tr> <td>4 P185 6.16.3 (2)</td> <td style="text-align: right;">10行</td> </tr> </table>		1 P182 6.16	8行	2 P182 6.16	9行	3 P182 6.16.1	22行	4 P185 6.16.3 (2)	10行
1 P182 6.16	8行													
2 P182 6.16	9行													
3 P182 6.16.1	22行													
4 P185 6.16.3 (2)	10行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公共工事の発注者側や受注者側の総合請負会社や専門工事会社が、値入作業をともなう内訳書の作成業務をおこなう。 2 民間発注者においては、実施設計完了後に独自に予算書を作成することが多い。 3 刊行物に掲載されている単価は、実際の取引価格を調査の上、掲載されている。 4 値入のミスは、数量積算のミス以上に大きなミスとなることが多い。 					<p>【解説】</p> <p>民間発注者側では、基本設計までの概算積算をおこなうことは多く見られるが、実施設計完了後に独自に予算書を作成することは少ない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 3. 記載通り。 4. 記載通り。 									

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	6 建築積算業務の実際	項 目	6.17 概算	細 目	正答肢	3								
<p>問題 I-14 基本計画段階の概算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P196 6.17.2 (1)①</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">24行</td> </tr> <tr> <td>2 P196 6.17.2 (1)②</td> <td style="text-align: right;">34行</td> </tr> <tr> <td>3 P197 6.17.2 (2)</td> <td style="text-align: right;">15行</td> </tr> <tr> <td>4 P197 6.17.2 (3)</td> <td style="text-align: right;">19行</td> </tr> </table>		1 P196 6.17.2 (1)①	24行	2 P196 6.17.2 (1)②	34行	3 P197 6.17.2 (2)	15行	4 P197 6.17.2 (3)	19行
1 P196 6.17.2 (1)①	24行													
2 P196 6.17.2 (1)②	34行													
3 P197 6.17.2 (2)	15行													
4 P197 6.17.2 (3)	19行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 事業計画の全体予算に合致しているか確認することや、各区分において予算配分が適切か、また各グレードと予算とのバランスを確認する。 2 コスト要因のほとんどが基本計画段階で決まってくるため、プロジェクトの成否を左右する一番重要な段階である。 3 基本計画段階では具体的な数量をベースとしたVEはおこなわない。 4 坪単価や過去の事例からだけでは、精度や以降のコストコントロールにつながらない等の問題が生じる。 					<p>【解説】</p> <p>基本計画段階から一部で具体的な数量をベースとしたVEが可能になる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 2. 記載通り。 4. 記載通り。 									

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	6 建築積算業務の実際	項 目	6.17 概算	細 目	正答肢	4						
<p>問題 I-15 基本設計段階の概算算出において基本計画の情報に付加される内容として、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 70%;">1 P199 6.17.3 (2)①</td> <td style="width: 30%; text-align: right;">24行</td> </tr> <tr> <td>2 P199 6.17.3 (2)②</td> <td style="text-align: right;">25行</td> </tr> <tr> <td>3 P199 6.17.3 (2)③</td> <td style="text-align: right;">26行</td> </tr> </table>		1 P199 6.17.3 (2)①	24行	2 P199 6.17.3 (2)②	25行	3 P199 6.17.3 (2)③	26行
1 P199 6.17.3 (2)①	24行											
2 P199 6.17.3 (2)②	25行											
3 P199 6.17.3 (2)③	26行											
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 山留め計画 2 主要構造断面 3 主要矩計図 4 平面詳細図 					<p>【 解 説 】</p> <p>基本設計段階で基本計画の情報に付加される内容には、次のものがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①仮設、土工計画(総合仮設、揚重計画、山留め計画、水替) ②構造(主要構造断面、杭=仕様、本数) ③意匠(詳細面積、各仕上表、断面図、主要矩計図、建具関係) ④設備(計画概要=配置や系統数、各スペックや容量) ⑤外構平面図 <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 2. 記載通り。 3. 記載通り。 							

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	5 工事費の構成	項 目	5.3 単価の種類	細 目	正答肢	2								
<p>問題 I-16 単価の用語説明に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 70%;">1 P47 5.4.1</td> <td style="width: 30%; text-align: right;">25、39行</td> </tr> <tr> <td>2 P44 5.3.2</td> <td style="text-align: right;">31行</td> </tr> <tr> <td>3 P48 5.4.3</td> <td style="text-align: right;">14行</td> </tr> <tr> <td>4 P47 5.4</td> <td style="text-align: right;">28行</td> </tr> </table>		1 P47 5.4.1	25、39行	2 P44 5.3.2	31行	3 P48 5.4.3	14行	4 P47 5.4	28行
1 P47 5.4.1	25、39行													
2 P44 5.3.2	31行													
3 P48 5.4.3	14行													
4 P47 5.4	28行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 仮設資材という全損とは、1件の工事現場だけで使用して、工事終了後は廃棄処分されるものである。 2 複合単価とは、材料費と労務費、運搬費を含んだ単価であり、専門工事会社の経費は含まない。 3 リース料金は原則としてリース会社の倉庫渡しの料金なので、現場までの運搬費を別途計上する。 4 仮設資材損耗相当分とは、減価償却費、整備修繕費、管理費などを含んだ使用料金である。 					<p>【 解 説 】</p> <p>複合単価とは、材料・労務・運搬および専門工事会社の経費を含めた単価である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 3. 記載通り。 4. 記載通り。 									

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	5 工事費の構成	項 目	5.3 単価の種類	細 目	正答肢	3								
<p>問題 I-17 内訳書で一般的に用いられている複合単価に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 70%;">1 P45 5.3.2</td> <td style="width: 30%;">7～10行</td> </tr> <tr> <td>2 P45 5.3.2</td> <td>5行</td> </tr> <tr> <td>3 P44 5.3.2</td> <td>42行</td> </tr> <tr> <td>4 P45 5.3.2</td> <td>1行</td> </tr> </table>		1 P45 5.3.2	7～10行	2 P45 5.3.2	5行	3 P44 5.3.2	42行	4 P45 5.3.2	1行
1 P45 5.3.2	7～10行													
2 P45 5.3.2	5行													
3 P44 5.3.2	42行													
4 P45 5.3.2	1行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 歩掛りによる単価算定方法は、一般に積上げ方式と呼ばれている。 2 公共工事に使用する目的で、体系的に調査された単価を、市場単価という。 3 部分別内訳書標準書式で仕上工事に使用される。 4 専門工事は、材料と労務を一括して各専門工事会社に発注するケースが多い。 					<p>【 解 説 】</p> <p>複合単価は「工種別内訳書標準書式」で主に使用される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 2. 記載通り。 4. 記載通り。 									

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	9 市場価格	項 目	9.2 価格情報の収集方法と分析	細 目	正答肢	4							
<p>問題 I-18</p> <p>価格に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>	<p>【 出 典 】</p> <p>建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P223 9.2.1</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">25行</td> </tr> <tr> <td>2 P222 9.1</td> <td style="text-align: right;">24行</td> </tr> <tr> <td>3 P223 9.1</td> <td style="text-align: right;">5行</td> </tr> <tr> <td>4 P224 9.2.1</td> <td style="text-align: right;">8行</td> </tr> </table>					1 P223 9.2.1	25行	2 P222 9.1	24行	3 P223 9.1	5行	4 P224 9.2.1	8行
1 P223 9.2.1	25行												
2 P222 9.1	24行												
3 P223 9.1	5行												
4 P224 9.2.1	8行												
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 調査価格は実際の取引価格であり、施工条件や施工数量が合致すれば直接使用できる。 2 技術的な相場観の工事価格と市場経済的な相場観の工事価格は、必ずしも一致しない。 3 積算価格をコスト、最終的な契約価格をプライスと区分して考えることが一般的になっている。 4 歩掛りによって算定した単価は、市場競争を踏まえた実勢価格と必ず一致する。 					<p>【 解 説 】</p> <p>歩掛りによって算定した単価は、市場競争を踏まえた実勢価格と乖離する場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 2. 記載通り。 3. 記載通り。 								

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	10 チェックおよびデータ分析	項 目	10.1 建築積算におけるチェック	細 目	正答肢	1												
<p>問題 I-19 一般的な鉄筋コンクリート造建築物の数量チェックをおこなう場合、次の名称とチェック数量の組合せのうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P237 10.1.6 (表10.2)</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">6行</td> </tr> <tr> <td>2 P237 10.1.6 (表10.2)</td> <td style="text-align: right;">5行</td> </tr> <tr> <td>3 P237 10.1.6 (表10.2)</td> <td style="text-align: right;">33行</td> </tr> <tr> <td>4 P237 10.1.6 (表10.2)</td> <td style="text-align: right;">26行</td> </tr> </table>		1 P237 10.1.6 (表10.2)	6行	2 P237 10.1.6 (表10.2)	5行	3 P237 10.1.6 (表10.2)	33行	4 P237 10.1.6 (表10.2)	26行				
1 P237 10.1.6 (表10.2)	6行																	
2 P237 10.1.6 (表10.2)	5行																	
3 P237 10.1.6 (表10.2)	33行																	
4 P237 10.1.6 (表10.2)	26行																	
<p>【解答肢】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">1 鉄筋</td> <td style="width: 5%; text-align: center;">—</td> <td style="width: 80%;">延べ面積×0.9～1.1 (t/延㎡)</td> </tr> <tr> <td>2 型枠</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>延べ面積×3.5～6.5 (㎡/延㎡)</td> </tr> <tr> <td>3 天井ボード張り</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>延べ面積×0.8～0.9 (㎡/延㎡)</td> </tr> <tr> <td>4 鉄筋コンクリート</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>延べ面積×0.6～0.9 (㎡/延㎡)</td> </tr> </table>					1 鉄筋	—	延べ面積×0.9～1.1 (t/延㎡)	2 型枠	—	延べ面積×3.5～6.5 (㎡/延㎡)	3 天井ボード張り	—	延べ面積×0.8～0.9 (㎡/延㎡)	4 鉄筋コンクリート	—	延べ面積×0.6～0.9 (㎡/延㎡)	<p>【解説】</p> <p>鉄筋チェック概数は、延床面積×0.09～0.11であり、著しくかけ離れている。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	
1 鉄筋	—	延べ面積×0.9～1.1 (t/延㎡)																
2 型枠	—	延べ面積×3.5～6.5 (㎡/延㎡)																
3 天井ボード張り	—	延べ面積×0.8～0.9 (㎡/延㎡)																
4 鉄筋コンクリート	—	延べ面積×0.6～0.9 (㎡/延㎡)																

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	14 改修工事	項 目	14.1 はじめに	細 目	正答肢	2							
<p>問題 I-20 改修工事に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 P314 14.1.2</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">39行</td> </tr> <tr> <td>2 P315 14.1.2</td> <td style="text-align: right;">11行</td> </tr> <tr> <td>3 P315 14.1.2</td> <td style="text-align: right;">26行</td> </tr> <tr> <td>4 P314 14.1.2</td> <td style="text-align: right;">39行</td> </tr> </table>	1 P314 14.1.2	39行	2 P315 14.1.2	11行	3 P315 14.1.2	26行	4 P314 14.1.2	39行
1 P314 14.1.2	39行												
2 P315 14.1.2	11行												
3 P315 14.1.2	26行												
4 P314 14.1.2	39行												
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 老朽化に伴う外壁仕上げ等の落下を防止予防するものがある。 2 1972～1981年の建築物は、原則として耐震補強が不要である。 3 アスベスト除去は将来的なリスク対応も含め処理方法が問題となる。 4 地震や水害等自然災害による被害軽減を目的にするものがある。 				<p>【解説】</p> <p>1972～1981年の建築物は、原則として補強が必要である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 3. 記載通り。 4. 記載通り。 									

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	12 LCC (ライフサイクルコスト)	項 目	12.1 LCCとは	細 目	正答肢	2
<p>問題 I-21</p> <p>LCC (ライフサイクルコスト) に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】</p> <p>建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P298 21行</p> <p>2 P298 23行</p> <p>3 P298 22行</p> <p>4 P298 23行</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 初期建設費（イニシャルコスト）には、企画・設計コストが含まれる。</p> <p>2 初期建設費（イニシャルコスト）には、保全コスト、改修・更新コストが含まれる。</p> <p>3 維持運用費（ランニングコスト）には、水、電気、ガス、オイルなどエネルギー等の運用コストが含まれる。</p> <p>4 維持運用費（ランニングコスト）には、建設コストが含まれない。</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>保全コスト、改修・更新コストは、維持管理費に含まれる。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	12 LCC（ライフサイクルコスト）	項 目	12.4 建築分野におけるLCCの目的	細 目	正答肢	4
<p>問題 I-22</p> <p>建築の分野においてLCCが貢献できる主な役割として、次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】</p> <p>建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P300 15行</p> <p>2 P300 16行</p> <p>3 P300 17行</p> <p>4 P300 18行</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 ライフサイクルコスト（生涯費用）の算出</p> <p>2 代替案の選択指針</p> <p>3 既存建築物のランニングコストの把握</p> <p>4 ライフサイクルコスト増加方策の検討</p>					<p>【解説】</p> <p>増加方策ではなく、低減方策である。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p>	

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	13 VE (バリューエンジニアリング)	項 目	13.1 VEとは	細 目	正答肢	3
<p>問題 I-23</p> <p>VE (バリューエンジニアリング) による機能とコストの対比による価値向上の考え方のうち、次の分類の中で最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】</p> <p>建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P307 8行</p> <p>2 P307 10行</p> <p>3 P307 12行</p> <p>4 P307 14行</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 コスト低減型</p> <p>2 機能向上型</p> <p>3 単一型</p> <p>4 拡大成長型</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>単一型ではなく、複合型である。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	15 環境とコスト	項 目	15.2 環境配慮計画	細 目	正答肢	3
<p>問題 I-24</p> <p>建築物に係る環境配慮項目として、次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】</p> <p>建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P322 29行</p> <p>2 P322 30行</p> <p>3 P322 29行</p> <p>4 P322 30行</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 周辺環境保全</p> <p>2 省エネルギー・省資源</p> <p>3 短命化</p> <p>4 エコマテリアルの使用</p>					<p>【解説】</p> <p>短命化ではなく、長寿命化である。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	6 建築積算業務の実際	項 目	6.14 設備の積算	細 目	正答肢	2								
<p>問題 I-25 設備工事の工事種目と工事科目の次の組み合わせのうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P177</td> <td style="width: 40%;">31行</td> </tr> <tr> <td>2 P177</td> <td>36行</td> </tr> <tr> <td>3 P177</td> <td>38行</td> </tr> <tr> <td>4 P177</td> <td>40行</td> </tr> </table>		1 P177	31行	2 P177	36行	3 P177	38行	4 P177	40行
1 P177	31行													
2 P177	36行													
3 P177	38行													
4 P177	40行													
<p>【解答肢】</p> <p>1 電気設備工事 ー 監視カメラ設備</p> <p>2 電気設備工事 ー 換気設備</p> <p>3 空調調和設備工事 ー 自動制御設備</p> <p>4 給排水衛生設備工事 ー 衛生器具設備</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>換気設備は空調調和設備工事に含まれる。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>									

2023年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	10 チェック及びデータ分析	項 目	10.4 設備工事の積算チェック	細 目	正答肢	1								
<p>問題 I-26 設備工事の特記仕様書に記載されている一般的な工事区分のうち、 最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P259</td> <td style="width: 40%;">26行</td> </tr> <tr> <td>2 P259</td> <td>22行</td> </tr> <tr> <td>3 P259</td> <td>34行</td> </tr> <tr> <td>4 P259</td> <td>13行</td> </tr> </table>		1 P259	26行	2 P259	22行	3 P259	34行	4 P259	13行
1 P259	26行													
2 P259	22行													
3 P259	34行													
4 P259	13行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 フリーアクセスフロアのコンセントは、機械設備工事である。 2 外壁まわりの換気扇は、機械設備工事である。 3 点検口（天井・床下）は、建築工事である。 4 避雷針（雷保護）設備・同接地工事は、電気設備工事である。 					<p>【 解 説 】</p> <p>フリーアクセスフロアのコンセントは 電気設備工事である。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>									

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第1編 総則	細 目	正答肢	4
<p>問題 II-1 建築数量積算基準の数量に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P330 5 (2) 2 P330 3 (2) 3 P330 3 (1) 4 P330 3 (3)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 端数処理は、四捨五入とする。</p> <p>2 計画数量とは、設計図書に基づいた施工計画により求めた数量をいう。</p> <p>3 設計数量とは、設計図書に記載されている個数及び設計寸法から求めた長さ、面積、体積等の数量をいう。</p> <p>4 所要数量とは、定尺寸法による切り無駄や、施工上やむを得ない損耗を含まない数量をいう。</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>所要数量とは、定尺寸法による切り無駄や、施工上やむを得ない損耗を含んだ数量をいう。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p>	

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第2編 仮設	細 目	正答肢	2
<p>問題 II-2 仮設の数量に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P333 2 (2) 2 P332 2 (3) 3 P332 2 (2) 4 P332 2 (1)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 コンクリート足場の数量は、延べ面積とする。</p> <p>2 鉄筋・型枠足場の数量は、建築面積とする。</p> <p>3 墨出し面積は、延べ面積とする。</p> <p>4 遣方の数量は、建築面積とする。</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>鉄筋・型枠足場の数量は、延べ面積とする。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第3編 土工・地業	細 目	正答肢	1
<p>問題 II-3 土工・地業に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P334 2 (2) 1) 2 P336 2 (5) 3 P335 4 4 P335 3 (1)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 根切りは、基礎・基礎梁の構造により、総掘りを原則とする。</p> <p>2 地業とは、基礎杭、地盤改良等の建物等を支持する部分及び砂利地業等をいう。</p> <p>3 排水とは、工事中の湧水及び雨水の排除をいう。</p> <p>4 山留め壁とは、根切り側面の土の崩壊等を防御するための仮設備をいう。</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>根切りは、基礎・基礎梁の構造により、つぼ・布掘り、総掘りに分類する。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目	正答肢	1								
<p>問題 Ⅱ-4 躯体の計測・計算の区分に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P337 1章 2節 (2)</td> <td style="width: 40%;">7行</td> </tr> <tr> <td>2 P337 1章 2節 (1) 4)</td> <td>3行</td> </tr> <tr> <td>3 P337 1章 2節 (5)</td> <td>19行</td> </tr> <tr> <td>4 P337 1章 2節 (6)</td> <td>23行</td> </tr> </table>		1 P337 1章 2節 (2)	7行	2 P337 1章 2節 (1) 4)	3行	3 P337 1章 2節 (5)	19行	4 P337 1章 2節 (6)	23行
1 P337 1章 2節 (2)	7行													
2 P337 1章 2節 (1) 4)	3行													
3 P337 1章 2節 (5)	19行													
4 P337 1章 2節 (6)	23行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各階柱のうち最下階の柱は、独立基礎上面から直上階床板上面までとする。 2 底盤とは、独立基礎、布基礎、基礎梁等に囲まれた内法部分をいう。 3 壁とは、柱、梁、床板等に接する垂直材の内法部分をいい、開口部を除く。 4 階段とは、段スラブ及びこれに付随する部分をいい、踊場、手すり壁等を含む。 					<p>【 解 説 】</p> <p>各階柱のうち最下階の柱は、基礎梁上面から直上階床板上面までとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 記載通り。 3. 記載通り。 4. 記載通り。 									

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目	正答肢	2								
<p>問題 II-5 コンクリートの計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 80%;">1 P339 2章 2 (5) 1)</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">27行</td> </tr> <tr> <td>2 P339 2章 2 (6) 1)</td> <td style="text-align: right;">32行</td> </tr> <tr> <td>3 P338 2章 1 (1) 1)</td> <td style="text-align: right;">5行</td> </tr> <tr> <td>4 P338 2章 1 (1) 4)</td> <td style="text-align: right;">10行</td> </tr> </table>		1 P339 2章 2 (5) 1)	27行	2 P339 2章 2 (6) 1)	32行	3 P338 2章 1 (1) 1)	5行	4 P338 2章 1 (1) 4)	10行
1 P339 2章 2 (5) 1)	27行													
2 P339 2章 2 (6) 1)	32行													
3 P338 2章 1 (1) 1)	5行													
4 P338 2章 1 (1) 4)	10行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 壁のコンクリートの数量で、梁、床板のハンチ等との取り合い部分の壁の欠除はないものとする。 2 階段コンクリートの数量は、設計寸法による蹴上高さ及び踊場などの板厚と、その内法面積とによる体積とする。 3 コンクリートの断面寸法は、小数点以下第3位まで計測・計算する。 4 窓、出入口等の開口部によるコンクリートの欠除は、原則として建具類等の開口部の内法寸法とコンクリートの厚さとによる体積とする。 					<p>【 解 説 】</p> <p>階段コンクリートの数量は、設計寸法による段スラブ、踊場等の板厚とその内法面積とによる体積とする。手すり壁は壁に準ずる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 3. 記載通り。 4. 記載通り。 									

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目	正答肢	4								
<p>問題 II-6 型枠の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P339 2章 2 (6) 2)</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">34行</td> </tr> <tr> <td>2 P338 2章 1 (2) 6)</td> <td style="text-align: right;">26行</td> </tr> <tr> <td>3 P339 2章 2 (5) 2)</td> <td style="text-align: right;">29行</td> </tr> <tr> <td>4 P339 2章 2 (4) 2)</td> <td style="text-align: right;">21行</td> </tr> </table>		1 P339 2章 2 (6) 2)	34行	2 P338 2章 1 (2) 6)	26行	3 P339 2章 2 (5) 2)	29行	4 P339 2章 2 (4) 2)	21行
1 P339 2章 2 (6) 2)	34行													
2 P338 2章 1 (2) 6)	26行													
3 P339 2章 2 (5) 2)	29行													
4 P339 2章 2 (4) 2)	21行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 階段の型枠の数量は、コンクリートの底面、他の部分に接続しない側面、踏面及び蹴上げの面積とする。 2 大面木、化粧目地、打継ぎ目地、誘発目地等は計測・計算の対象とする。 3 壁の型枠の数量は、コンクリートの側面及び壁梁底面の面積とする。 4 床板の型枠の数量は、コンクリートの底面の面積とし、梁の水平ハンチによる底面の欠除は、1か所当たり0.5㎡以下の場合はないものとする。 					<p>【 解 説 】</p> <p>床板の型枠の数量は、コンクリートの底面の面積とする。ハンチのある場合の底面積の伸びはないものとし、また梁の水平ハンチによる底面の欠除はないものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 2. 記載通り。 3. 記載通り。 									

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目	正答肢	4							
<p>問題 Ⅱ-7</p> <p>鉄筋の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>	<p>【 出 典 】</p> <p>建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P341 3章 2 (2) 2)</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">32行</td> </tr> <tr> <td>2 P340 3章 1 3)</td> <td style="text-align: right;">22行</td> </tr> <tr> <td>3 P342 3章 2 (5) 1) ②</td> <td style="text-align: right;">21行</td> </tr> <tr> <td>4 P340 3章 1 8)</td> <td style="text-align: right;">32行</td> </tr> </table>					1 P341 3章 2 (2) 2)	32行	2 P340 3章 1 3)	22行	3 P342 3章 2 (5) 1) ②	21行	4 P340 3章 1 8)	32行
1 P341 3章 2 (2) 2)	32行												
2 P340 3章 1 3)	22行												
3 P342 3章 2 (5) 1) ②	21行												
4 P340 3章 1 8)	32行												
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 柱の径の異なる主筋の継手は、各階1か所とし、その位置は床板上面から1.0mとする。 2 幅止筋の長さは、基礎梁、梁、壁梁、壁のコンクリートの設計幅又は厚さとし、フックはないものとする。 3 壁(壁式構造以外)の縦筋の継手は原則として各階に1か所あるものとし、開口部腰壁、手すり壁等の継手はないものとする。 4 窓、出入口などの内法面積0.5㎡以下の開口部の補強筋は、計測の対象としない。 					<p>【 解 説 】</p> <p>1か所当り内法面積0.5㎡以下の開口部による鉄筋の欠除は原則としてないものとする。なお、開口補強筋は設計図書により計測・計算する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 2. 記載通り。 3. 記載通り。 								

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目	正答肢	3								
<p>問題 II-8 鉄筋の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P341 3章 2 (3) 2)</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">42行</td> </tr> <tr> <td>2 P342 3章 2 (5) 1) ①</td> <td style="text-align: right;">19行</td> </tr> <tr> <td>3 P340 3章 2 (1) 2)</td> <td style="text-align: right;">40行</td> </tr> <tr> <td>4 P340 3章 1 4)</td> <td style="text-align: right;">25行</td> </tr> </table>		1 P341 3章 2 (3) 2)	42行	2 P342 3章 2 (5) 1) ①	19行	3 P340 3章 2 (1) 2)	40行	4 P340 3章 1 4)	25行
1 P341 3章 2 (3) 2)	42行													
2 P342 3章 2 (5) 1) ①	19行													
3 P340 3章 2 (1) 2)	40行													
4 P340 3章 1 4)	25行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 連続する梁の全長にわたる主筋の継手については、梁の長さが5.0m未満は0.5か所、5.0m以上10.0m未満は1か所、10.0m以上は2か所あるものとする。 2 壁(壁式構造以外)の縦筋、横筋の長さは、接続するほかの部分に定着するものとし、壁の高さ又は長さに定着長さを加えたものとする。 3 布基礎の接続部の長手方向のベース筋は、布基礎の長さとその定着長さを加えたものとする。 4 径の異なる鉄筋の重ね継手は、小径による継手の長さとする。 					<p>【 解 説 】</p> <p>布基礎の接続部の長手方向のベース筋は相互に交差したものと計測・計算する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 2. 記載通り。 4. 記載通り。 									

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目	正答肢	1
<p>問題 Ⅱ- 9 鉄骨の区分に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P343 第4章 第1節 2 P343 第4章 第1節 1(1) 3) 3 P344 第4章 第1節 2(1) 1) 4 P343 第4章 第1節 1(3) 2)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 鉄骨は、本体鉄骨及び付帯鉄骨、ボルト類に区分する。</p> <p>2 各節の柱と柱の接合部材は、原則として接合する「あとの部分」に含める。</p> <p>3 鉄骨階段は段板、ささら桁及びこれに付随する部分をいい、踊場を含む。</p> <p>4 柱または梁に接合するブレースの接合部材は、原則として接合するブレースの部分に含める。</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>鉄骨は、本体鉄骨及び付帯鉄骨に区分する。また、ボルト類及び溶接を含むものとする。</p> <p>2. 記載通り</p> <p>3. 記載通り</p> <p>4. 記載通り</p>	

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第5編 仕上	細 目	正答肢	2
<p>問題 II-10 間仕切下地の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P346 1章 2節 2 (2) 1) 2 P346 1章 2節 2 (2) 1) 3 P347 1章 2節 2 (3) 3) 4 P357 1章 2節 2 (4)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 押出成形セメント板による間仕切下地は、面積又は設計寸法による枚数を数量とする。</p> <p>2 ALCパネルによる間仕切下地でコーナー役物等がある場合は、長さ又は体積を数量としてもよい。</p> <p>3 木材による間仕切下地について、材料としての所要数量を求める必要があるときは、適切な統計値によることができる。</p> <p>4 スタッド式軽量鉄骨間仕切は、スタッド幅及びスタッド間隔ごとに区分して計測・計算する。</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>コーナー役物等がある場合は長さ又は箇所を数量としてもよい。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第5編 仕上	細 目	正答肢	4
<p>問題 II-11 内部仕上の区分に関する次の組合せのうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P347 2章 1節 2 (3) 1) 2 P348 2章 1節 2 (3) 2) 3 P348 2章 1節 2 (3) 3) 4 P348 2章 1節 2 (3) 4)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 床 — 高さが0.3m以下の床段違いの側面</p> <p>2 壁 — 手すり壁の笠木</p> <p>3 開口部 — 建具の沓摺</p> <p>4 天井 — 壁付梁の側面</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>独立柱、壁付柱、壁付梁、開口部周囲の見込、階段さら桁、幅木、手すり、笠木等は壁に属するものとし、それぞれに区分する。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p>	

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第5編 仕上	細 目	正答肢	3
<p>問題 Ⅱ-12 木材の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P350 2章 2節 3 (6) 1) 2 P351 2章 2節 3 (6) 3) 3 P351 2章 2節 3 (6) 4) 4 P351 2章 2節 3 (6) 6)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 木材による額縁等の数量は、原則として内法寸法による箇所数又は内法寸法に基づく周長を数量とする。</p> <p>2 幅木、回縁、ボーダー等の数量は、原則として長さを数量とする。</p> <p>3 銘木類は、設計寸法による本数、枚数又は体積を数量とする。</p> <p>4 木材による下地板類、壁胴縁等については、原則としてその主仕上の数量による。</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>銘木類及び積層材は、設計寸法による本数、枚数又は面積を数量とする。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第5編 仕上	細 目	正答肢	4
<p>問題 II-13 木製建具類の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P351 2章 2節 3 (9) 1) 2 P351 2章 2節 3 (9) 2) 3 P351 2章 2節 3 (9) 3) 4 P143 6.9</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 主仕上の材質、形状等により区分し、建具類の符号及びサイズ別の箇所数を数量とする。</p> <p>2 塗装等の表面処理についての計測・計算は、適切な統計値又は係数値によることができる。</p> <p>3 建具金具等は、その規格、仕様等ごとの組数又は箇所数を数量とする。</p> <p>4 建具の枠は、木製の場合は建具に含め、金属製の場合は金属製建具または金属に計上する。</p>					<p>【解説】</p> <p>木製建具の枠は、建具とは別に計測する。枠が木製の場合は木工に計上し、金属製の場合は金属製建具または金属に計上する。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p>	

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第5編 仕上	細 目	正答肢	2
<p>問題 Ⅱ-14 内外装材の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P352 2章 2節 3 (13) 1) 2 P352 2章 2節 3 (13) 2) 3 P352 2章 2節 3 (13) 3) 4 P352 2章 2節 3 (13) 4)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 瓦、スレート等による屋根の主仕上は、原則として軒先等までの設計寸法による面積から、開口部の面積を差し引いた葺上げ面積を数量とする。</p> <p>2 布張り、紙張り等は設計寸法に重ね代を加算した面積を数量とする。</p> <p>3 ボード類等は、ジョイント工法（継目処理工法）、目透し工法、突付け工法等の工法ごとに区分して計測・計算する。</p> <p>4 ビニール床シート、カーペット等の数量は、設計寸法による面積とする。</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>布張り、紙張り等の重ね代は計測の対象としない。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第6編 屋外施設等	細 目	正答肢	1
<p>問題 II-15 植栽工事の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P355 4章 2節 1 (1) 2 P355 4章 2節 1 (2) 3 P355 4章 2節 1 (3) 4 P355 4章 2節 1 (5)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 植栽基盤の数量は、工法の種別ごとに、面積に樹木等に応じた有効土層の厚さを乗じた、体積を数量とする。</p> <p>2 樹木の数量は、樹種及び寸法ごとに、本数、株数又は面積を数量とする。</p> <p>3 芝類の数量は、種類及び工法ごとに、面積を計測・計算する。</p> <p>4 支柱、ツリーサークル等の数量は、材質、形状及び寸法ごとに箇所数又は長さを数量とする。</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>植栽基盤の数量は、工法の種別、樹木等に応じた有効土層の厚さごとに、面積を計測・計算する。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第7編 改修	細 目		正答肢	3
<p>問題 II-16 仕上の改修工事に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>						<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P358 3章 2節 3 (1) 2 P358 3章 2節 3 (2) 3 P358 3章 2節 3 (3) 4 P358 3章 2節 3 (4)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 防水改修とは、既存防水層の劣化・漏水等の現状回復又は新たに防水層を設ける改修をいう。</p> <p>2 外壁改修とは、外壁のひび割れ、欠損、浮き等の劣化部の補修並びに仕上の新設をいう。</p> <p>3 建具改修とは、既存の建具を新規に取り替える場合及び既存の建具を撤去し、鉄筋コンクリートで塞ぐ場合等をいう。</p> <p>4 内装改修とは、床、壁及び天井の既存仕上及び下地の一部又は全面を撤去し、仕上及び下地の新設並びに補修をいう。</p>						<p>【 解 説 】</p> <p>建具改修とは、既存の建具を新規に取り替える場合及び既存の壁に開口を設けて新規に建具を取り付ける場合等をいう。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第3編 土工・地業	細 目		正答肢	1
-----	----------	-----	-----------	-----	--	-----	---

問題 Ⅱ-17

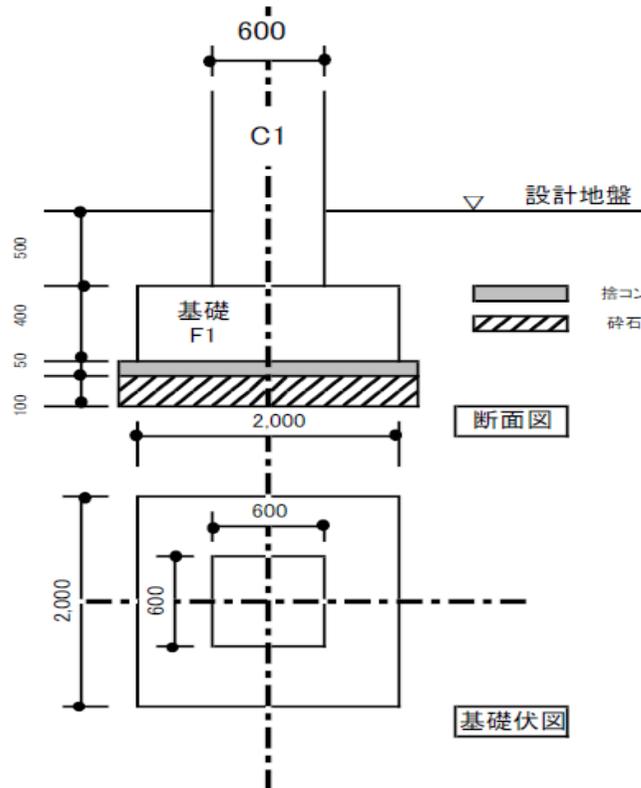
下図の独立基礎における根切数量として次のうち、**最も適切なもの**はどれか。

【解答肢】

(m³)

- 1 9.45
- 2 11.57
- 3 13.91
- 4 16.80

【 図 】



【 出 典 】

建築積算士ガイドブック

【 解 説 】

根切り数量を求めるに当たり、正しい理解が出来ているかの設問

根切深さ=1.05

法幅=0

作業上のゆとり幅=0.50m

余幅=0.50m

$$(2.00+0.50+0.50) \times (2.00+0.50+0.50) \times 1.05=9.45$$

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目		正答肢	3
-----	----------	-----	--------	-----	--	-----	----------

問題 Ⅱ-18

下図の基礎梁 (FG) の、コンクリート数量(m3)として、**最も適切なもの**はどれか。

【解答肢】

(m3)

- 1 3.50
- 2 3.58
- 3 3.64
- 4 3.72

【部材リスト】(単位mm)

	柱	基礎梁	基礎
記号	C	FG	F1
寸法	800×800	W500×H1200	W1600×D1600×H700

【出典】

建築数量積算基準

第4編 躯体

第2章 コンクリート部材

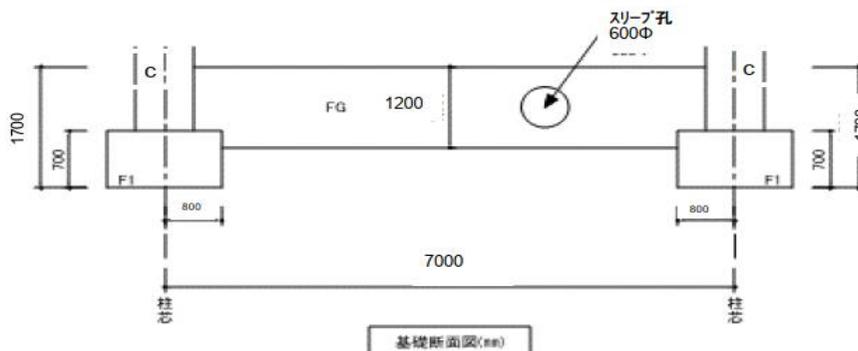
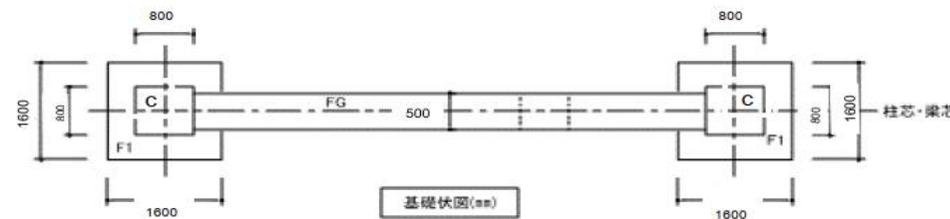
第2節 コンクリート部材の計測・計算

2 各部材の計測・計算

(1) 基礎

3) 基礎梁

【 図 】



【解説】

$$(7.00 - 0.40 \times 2) \times 0.50 \times 1.20 = 3.72$$

▲ $0.40 \times 0.20 \times 0.50 \times 2 = 0.08$ …基礎取合い

$$3.72 - 0.08 = 3.64 \quad \text{計} \quad 3.64\text{m}^3$$

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目		正答肢	1
-----	----------	-----	--------	-----	--	-----	---

問題 II-19

下図の梁（G1、A通り～B通り間）の型枠数量(m²)として、最も適切なものはどれか。

【解答肢】

(m²)

- 1 11.76
- 2 12.48
- 3 12.96
- 4 13.68

【出典】

建築数量積算基準

第4編 躯体

第2章 コンクリート部材

第2節 コンクリート部材の計測・計算

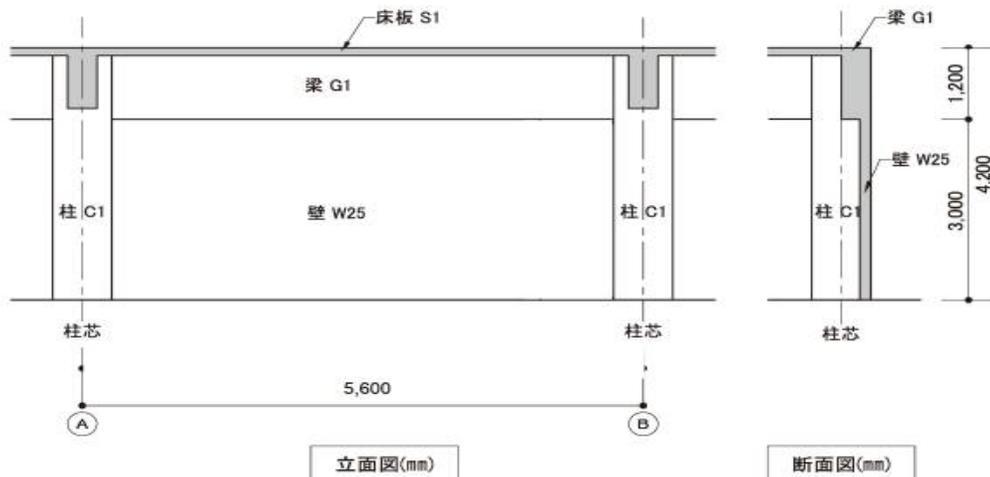
2 各部材の計測・計算

(3) 梁

【 図 】

【部材リスト】(単位mm)

	柱	梁	床板	壁
記号	C1	G1	S1	W25
寸法	800 × 800	W 450 × H1,200	厚 150	厚 250



【 解 説 】

梁 $(1.20+0.45+1.20-0.15) \times (5.60-0.40 \times 2) = 12.96$

壁欠除 ▲ $(5.60-0.40 \times 2) \times 0.25 = 1.20$

12.96-1.20=11.76 計 11.76m²

梁と床板が取り合う場合の
梁の側面型枠は床板の厚みを差し引く。

接続部の面積が1.0m²以下の型枠の欠除はなし。

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目		正答肢	2
-----	----------	-----	--------	-----	--	-----	---

問題 II-20

下図の小梁(B1)における各項目の数量として次のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

【解答肢】

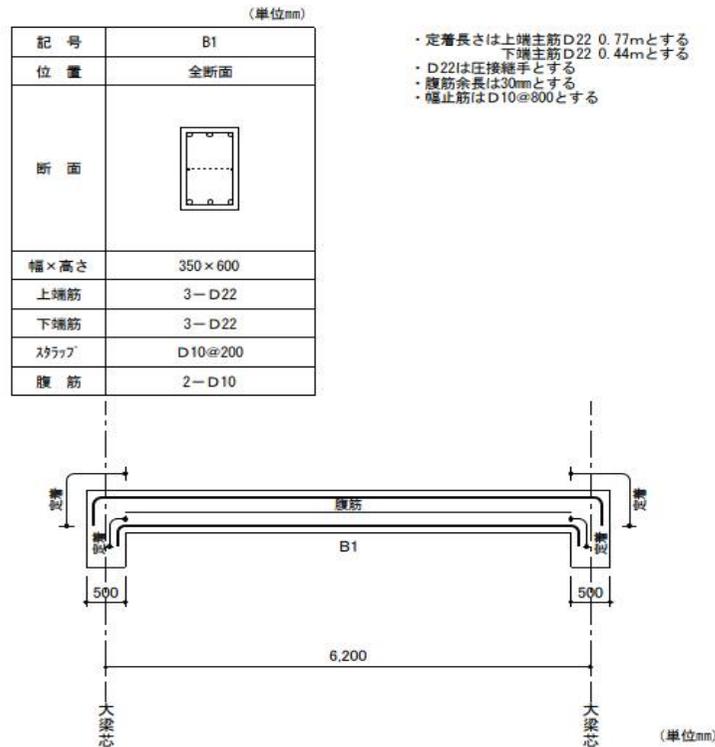
- | | | |
|----------------|---|--------|
| 1 主筋 (D22) | — | 41.46m |
| 2 圧接 (D22+22) | — | 6か所 |
| 3 スタラップ筋 (D10) | — | 57.00m |
| 4 腹筋 (D10) | — | 11.52m |

【出典】

建築数量積算基準

- 第4編 躯体
 第3章 鉄筋
 第2節 鉄筋の計測・計算
 1通則 2) 4) 5) 6) 7)
 2各部位の計測・計算
 (3) 梁 1) 3)

【図】



【解説】

単独梁のD16以上の鉄筋の継手は、鉄筋の長さ7.00mごとに1か所である。

上端主筋1本当り長さ
 $(6.20 - 0.25 \times 2) + 0.77 + 0.77 = 7.24\text{m}$ 継手1か所

下端主筋1本当り長さ
 $(6.20 - 0.25 \times 2) + 0.44 + 0.44 = 6.58\text{m}$ 継手なし

D19以上は圧接継手より
 上端主筋 1か所×3本=3ヶ所となる。

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目	正答肢	1
<p>問題 II-21 下図の全溶接構造の溶接H形鋼 L=6,000の計測・計算で、100台分の設計数量（t）として次のうち、最も適切なものはどれか。</p> <p>【解答肢】</p> <p>1 104.07 2 104.37 3 104.57 4 104.88</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <p>第4章 鉄骨 第2節 鉄骨の計測・計算 1 通則 5)</p>	
<p>【 図 】</p> <div style="text-align: center;"> </div>					<p>【解説】 鋼板は原則として設計寸法による面積を計測・計算する。ただし、複雑な形状のものはその面積に近似する長方形として計測・計算することができる。なお、全溶接構造の鋼板の場合は第1編 総則 5(3)の定めにかかわらず短辺方向は小数点以下第3位まで、計測・計算する。</p> <p>フランジ $0.300\text{m} \times 2ヶ所 \times 6.00\text{m} \times 172.7\text{kg/m}^2 \times 100台 \div 1,000 = 62.17\text{ t}$</p> <p>ウェブ $0.556\text{m} \times 6.00\text{m} \times 125.6\text{kg/m}^2 \times 100台 \div 1,000 = 41.90\text{ t}$</p> <p>$62.17\text{t} + 41.90\text{t} = 104.07\text{t}$</p>	

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章目	建築数量積算基準	項目	第5編 仕上	細目		正答肢	2
----	----------	----	--------	----	--	-----	---

問題 II-22

下図の展開図A面の壁大理石張りの数量 (m²) として次のうち、**最も適切なもの**はどれか。

【解答肢】

(m²)

- 1 14.60
- 2 14.70
- 3 15.20
- 4 15.72

【出典】

建築積算士ガイドブック

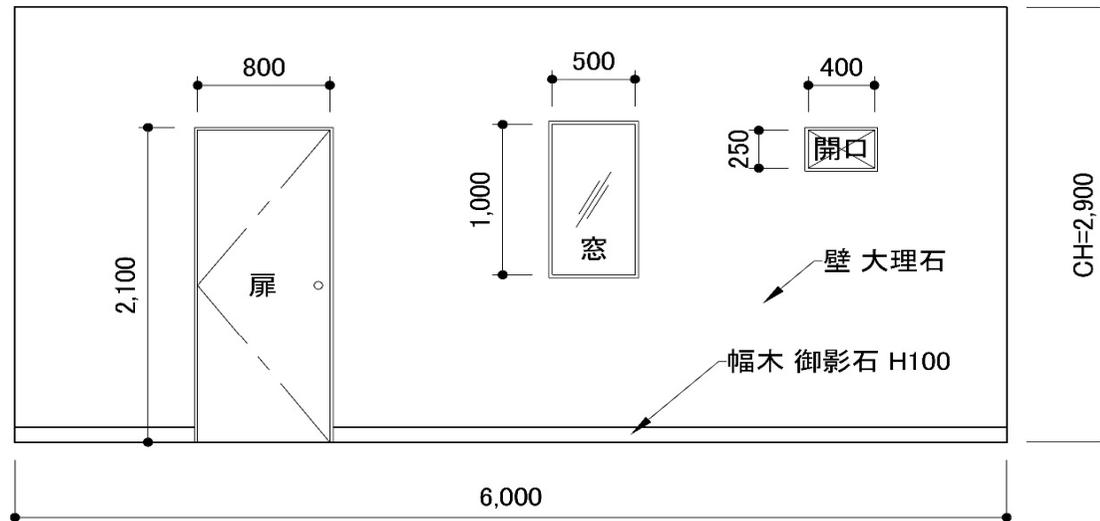
第2章 仕上

第2節 仕上の計測・計算

3 材種による特則

(4) 石材

【図】



展開図A面(mm)

【解説】

P350

その主仕上の表面の寸法を設計寸法とする面積から、建具類等開口部の内法寸法による面積を差し引いた面積とする。ただし、開口部の面積が1か所当たり0.1m²以下のときは、その主仕上の欠除は、原則としてないものとする。また、仕上代0.05m以下の場合でも、その仕上表面の寸法を計測・計算する。

$$6.00 \times (2.90 - 0.10) - 0.80 \times (2.10 - 0.10) - 0.50 \times 1.00 = 14.70 \text{ m}^2$$

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第5編 仕上	細 目		正答肢	3
-----	----------	-----	--------	-----	--	-----	----------

問題 II-23

下図の建具のフロートガラス (FL-5) の面積 (㎡) と建具周囲モルタル充てん数量 (m) の次の組合せのうち、**最も適切なもの**はどれか。
扉の沓摺は無いものとする。

【解答肢】

	ガラス (㎡)		モルタル充てん (m)
1	2.28	—	11.40
2	2.28	—	12.20
3	2.40	—	11.40
4	2.40	—	12.20

【出典】

建築積算士ガイドブック

第2章 仕上

第2節 仕上の計測・計算

3 材種による特則

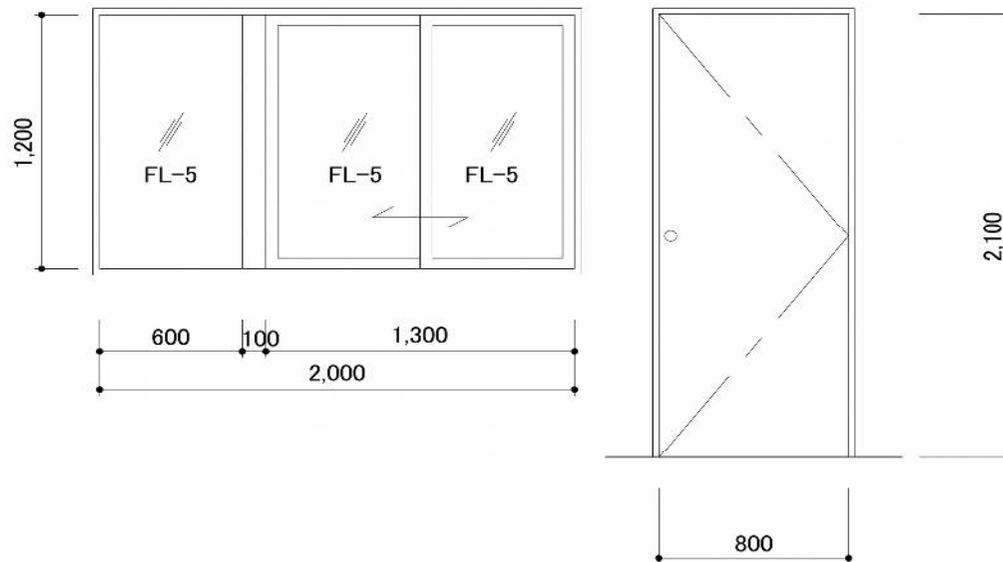
(8) 左官材

5)

(11) ガラス材

1)

【図】



建具姿図(mm)

【解説】

P351

建具等の開口部周囲のモルタル充てん等の計測・計算は、内法寸法に基づく周長を数量とする。

P352

全面がガラスである建具類のガラスの数量は、…建具類の内法寸法による面積を数量とする。ただし、かまち、方立、棧等の見付幅が 0.1m を超えるものがあるときは、その面積を差し引いた面積とする。

ガラス

$$2.00 \times 1.20 = 2.40 \text{ m}^2$$

モルタル充てん

$$(2.00 + 1.20) \times 2 + 0.80 + 2.10 \times 2 = 11.40 \text{ m}$$

2023年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第7編 改修	細 目		正答肢	4
-----	----------	-----	--------	-----	--	-----	----------

問題 Ⅱ-24

下図の鉄筋コンクリート造の耐震補強壁（厚200）の数量として次のうち、**最も適切なもの**はどれか。コンクリートは壁の上部より打設後、グラウト材を圧入するものとする。周囲の躯体の目荒らしは長さ（m）で計上する。

【解答肢】

- 1 躯体面目荒らし 幅200 — 11.00 m
- 2 割裂補強筋 直径120 — 16.00 m
- 3 普通コンクリート — 2.60 m³
- 4 グラウト材 200×200 — 5.00 m

【出典】

建築積算士ガイドブック

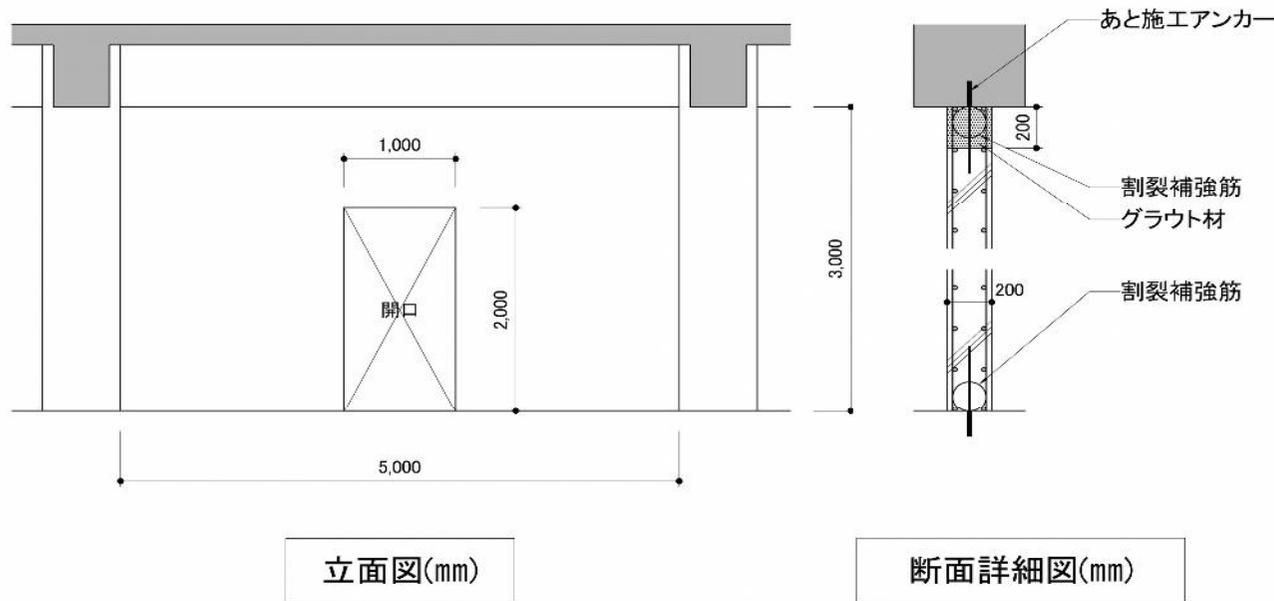
第2章 躯体改修

第2節 躯体改修の計測・計算

2 躯体改修の計測・計算

(4)

【図】



【解説】

P357

グラウト材の数量は、設計寸法による断面積とその長さによる体積又は長さとする。

立面図より（壁長さ）
5.00m